

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770700581		
法人名	特定非営利活動法人豊心会		
事業所名	グループホームすずらん日向		
所在地	〒962-0015 福島県須賀川市日向町17番地 (電話) 0248-73-3303		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年6月30日	評価確定日	平成20年8月1日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1階建ての 1 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	3,000円(2月~10月) 9,000円(11月~3月)
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.8歳	最低	69歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田記念病院、寿泉堂松南病院、矢部医院、小松歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東北自動車道須賀川インターに近く交通の便もよく、目の前には大規模農産物販売所があり、畑や住宅に隣接する静かな生活環境にある事業所である。鉄骨平屋の2ユニットであり、各ユニットの共有空間から畑の作物が見え、開放的になっており、利用者はいつでも畑に出ることができる。共有空間は天窓から自然な光が射し、掃出し窓を開け風通しを良くしている。このホームでは、利用者が社会的な関わりを持ち続け、利用者の持っている力を活かし生活することを大切にしており、職員が見守りながら買い物、畑仕事、洗濯、散歩等、利用者の希望に合わせて行えるようになっている。利用者や家族の思いを実現できるよう、ユニット全体で検討し取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価で取り組みが必要だと判断された「災害対策」「現状に即した介護計画の見直し」の項目は、備蓄を準備したり、介護計画の期間を決め、終了時に評価を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者から自己評価の意義を説明し、職員が分担して作成し、全員で検討しながら作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。スライドを用いわかりやすく事業所行事等の活動報告をし、毎回テーマを決め「防災安全対策」「外部評価」「事故報告」「緊急時の対応」「職員体制」等を議題としている。毎回最後に、委員の意見交換をし、ボランティアの協力申し出や防犯パトロールについて協力的な意見も出されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年に3~4回開催される家族会の際に、家族の意見、不満、要望等を聞き取る機会を設けている。また、運営推進会議に出席している家族代表から出される意見等や事業所来訪時に聞き取った家族の願い等を事業所の運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 行事や運営推進会議の際にボランティアを受け入れたり、避難訓練へ地域の協力を依頼したり、地域の認知症研修会へ講師を派遣したり、地域の行事に利用者や参加したり、さらに、事業所の行事に地域の人達を招いたり、地域とはいろいろな形で関わり連携が取られている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に家庭的な環境と地域住民との連携、交流に関する表現がないが、事業所のケア方針に「地域の交流を深めていく」と盛り込んである。	○	実践の中では、利用者が社会的な関わりを持ち続けることを大切に支援しているため、今後は、地域密着型サービスとしての役割を反映した表現を理念に追加する必要があると思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議などで理念を具体化し、日常的に利用者に必要な支援へ掘り下げて伝えている。事業所としての理念とユニットごとの理念があり、職員にはユニットごとの理念が周知されている。		今後は、事業所の理念とユニットごとの理念の関わりを職員に伝えていくことで、職員の中でも整理できるものと思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームへ入居前の友人が訪ねて来たり、地域行事へ利用者と共に参加したり、ホームの行事に地域の人々が参加してくれたりし、地域との双方向の交流がされている。運営推進会議の委員からボランティアの協力申出や、防犯パトロールの話しがあり、地域とうまく連携が取れていることがわかる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーが会議の際、評価の意義を伝え、各職員が分担し原案を作成し、それを基に全職員で検討し作り上げた。また、前年の外部評価の結果を基に職員で改善について検討し取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、計画的に開催し、スライドを用いて事業所からの説明、報告等行っている。また、毎回テーマを決めて事業所の運営の課題、問題等について意見交換をし、運営に活かしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、担当職員が、利用者ごとの暮らしの様子、健康状態、病院等受診の報告、今月のトピックス、家族への連絡事項等を報告している。職員の異動については、担当者から個別連絡をしたり、2ヶ月に1回発行している「すずらん日向NEWS」で伝えたり、家族の来訪時に報告したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で家族の意見、要望等を話してもらうよう声掛けしている。また、家族来訪時に意見等言いやすい雰囲気を作り、個別に聞き取っている。家族からの要望等は職員会議で検討対応している。結果についても家族に伝えている。		今後は、市役所の苦情相談窓口等を案内されればさらに良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職がやむをえない場合、2週間程度の勤務の重複期間を設け、利用者の思い等を新しい職員も共有できるようにし、さらに、利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場や経験に応じた計画的な内部研修を実施したり、外部研修に参加させたりしている。基礎研修、自主研修、事例研究等の取り組みをし事業所内で発表しあうようにしている。職員の資格取得には勤務調整をしたり、取得後には手当などで評価している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム連絡協議会には毎回職員が順番で参加し、地域ネットワークにも職員が参加している。その際、同業者等との連携、交流を通じて質の向上への取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が今までの生活歴で身につけた力を発揮できるよう、職員と一緒にいながら縫い物、畑仕事、洗濯物畳み、洗濯、調理などの場面作りがされている。一緒に行う中で職員も利用者からいろいろなことを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を作成する際、利用者の言葉、思いを聞き取りそのまま記録している。毎日の生活の中で利用者の体調変化や希望を確認しながら、賄い材料の買い物、散歩、ドライブ等の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の一部を利用し、本人の言葉、思いを記録し、利用者本位の介護計画を作成している。「問題解決ノート」「取り組みノート」を活用し、利用者や家族の意向を職員全体で共有し、毎月のケア会議で問題、課題を検討しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実際のケアの場面において、職員は利用者本位に対応しているため、利用者の思いの変化にも気づくことが出来る。職員の気づき、利用者の状態の変化に応じて介護計画を変更し、現状に即した新しい計画を作成している。しかし、計画終了時の評価が利用者の意向に沿った短期目標を達成するための、援助項目ごとの評価は行っていない。	○	短期目標を実現させるための援助項目ごとの評価を行っていないのが、残念であった。利用者の思いを実現するために支援のあり方が適切であったか、振り返る事が必要であり、そのまま継続するのか、終了するのかを決めながら、計画を見直し、新たな計画を作成することも大切である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同行や職員の通院介助等で利用者がグループホームの協力医や利用者のかかりつけ医の受診ができるような体制となっている。また、往診により受診できる体制も確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化・看取りに関する指針」を作成し、利用者や家族へ説明し同意を得ている。終末期の生活支援に関する覚書を取り交わし、家族と話し合いながら終末期を迎えた利用者がいた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを尊重し、プライバシーに充分配慮し、対応している。個人情報利用同意書も個々に取り交わされており適切な取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、近くの神社にお参りにいく人、部屋で食事を摂りたい人、朝寝坊したい人、タバコが吸いたい人等、一人ひとりが望む過ごし方になるよう適切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備、調理、食事、後片付け等、できるだけ利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。収穫した畑の野菜やスーパーで買った食品を使い、利用者の好みを聞きながら毎日、夕食の献立を考え、食事作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めているのではなく、利用者の意向を確認しながら、入浴支援を行い、時間も本人の意向を大切にしている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮し、言葉掛けを工夫したり、気の合う職員が対応したりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	仕事をしたい利用者は、法人内デイサービスに週2回出かけている。買い物に行ったり自分の好きなものを選んだり、畑仕事をしたり、洗濯をしたり、茶碗拭きや洗濯物たたみをしたり、一人ひとりが持っている力を発揮できるような場面作りがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	多くの家族の協力を得ながら、ユニットごとに花見等外出の機会が設けられている。日常的な近くの外出であれば職員と一緒に同行している。墓参り、利用者の自宅、利用者の馴染みの場所等は家族の協力を得ながら、できるだけ利用者の希望に沿うよう外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの気分や状態に応じた支援を大切にして孤立しないよう職員が見守っている。職員室は人の出入りが確認できるため、日中玄関は鍵を掛けず、開放している。各居室も施錠はされていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力が得られるよう働きかけをしている。避難訓練は年2回実施している。さらに、1日分の非常災害時に必要となる食料等の備蓄を準備している。		今後は、夜間を想定した訓練をされるとさらによいと思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分の確保については一人ひとり管理している。法人内の栄養士に確認してもらいながら、献立等作成している。また、利用者の病状等必要に応じてかかりつけ医に相談しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である食堂と畳コーナーは利用者が一人になれるよう、家具等を配置し工夫した造りとなっている。また、花や外出時の写真等を飾り、利用者の興味を引くよう工夫している。また、家族の協力を得、利用者が自宅で使っていた足踏みのミシンを使用し、利用者が懐かしい思いで過ごせるよう支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者や家族に話し、使い慣れた物を持ち込んでもらい生活している。馴染みの机、椅子、写真、仏壇、テレビ等を持ち込み利用者が居心地よく過ごせる環境となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームすずらん日向

記入担当者名 橋本 好博

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。